

# 瀬戸内海のトラフグ資源管理 に係る取り組み（広島県）

## 小型魚の保護

すべての漁業種類について、

全長 **10 cm** 以下のトラフグは再放流しましょう！  
操業日数の10%削減に努めましょう。



**小型魚を保護しましょう**

延縄漁業は・・・

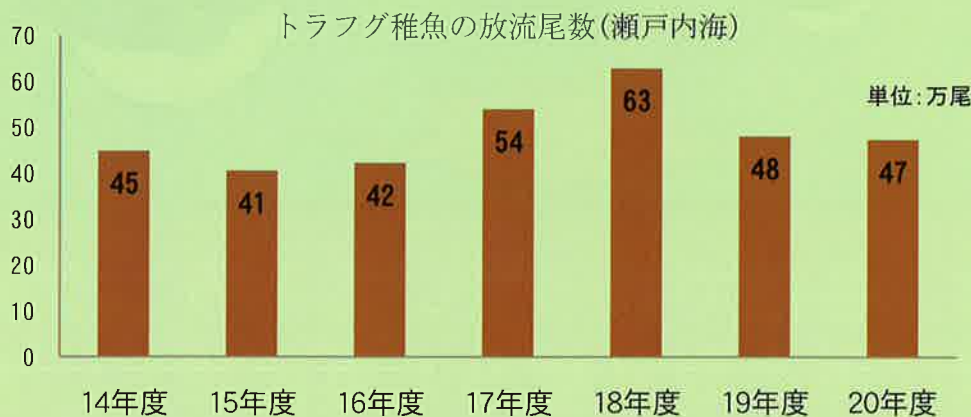
浮きはえなわの使用は禁止です！

8月は休漁しましょう。

## 種苗放流の推進

**トラフグの種苗放流を行っています！**

関係各県や民間団体による種苗放流を、瀬戸内海各地で実施しています。最近の研究により、このような放流魚も自然界で子孫を残していることが明らかになりました。放流した稚魚を育てて次世代資源を増やしましょう。



(社)全国豊かな海づくり推進協会資料

# 瀬戸内海西部のトラフグ資源管理



資源の減少を食い止めるには・・・

- ① 小型魚（当歳魚1歳魚）の保護  
瀬戸内海における漁獲は小型魚が約8割！  
制限全長以下の魚は再放流が基本
- ② 種苗放流の推進  
健全な種苗の適地放流や放流直後の混獲抑制

期待される効果

小型魚の生存率向上で資源の維持に貢献し、  
後年の漁獲確保と収入増加が期待される！



まずは、各県で行っているトラフグ資源管理に係る取り組みを再確認し、資源維持に努めましょう。

# 瀬戸内海のトラフグ資源管理 に係る取り組み（山口県）

## 小型魚の保護

- (1) 全長 15cm 以下のトラフグは再放流しましょう！
- (2) ふぐ延縄漁業では、釣り針の太さが直径 1.2mm 以上のものを使いましょう！



小型魚を保護しましょう

## 種苗放流の推進

トラフグの種苗放流を行っています！

山口県では、平成21年にトラフグ稚魚16万尾を放流しました。  
（平成22年は、20万尾を放流予定）

トラフグ漁獲量の約3割が放流魚だと言われています。  
また、稚魚が好む河口域への放流や放流稚魚の混獲を防ぐことで、放流効果が格段にアップします。



種苗放流・適地放流を推進しましょう



# 瀬戸内海西部のトラフグ資源管理



資源の減少を食い止めるには・・・

- ① 小型魚（当歳魚1歳魚）の保護  
瀬戸内海における漁獲は小型魚が約8割！  
制限全長以下の魚は再放流が基本
- ② 種苗放流の推進  
健全な種苗の適地放流や放流直後の混獲抑制

期待される効果

小型魚の生存率向上で資源の維持に貢献し、  
後年の漁獲確保と収入増加が期待される！



まずは、各県で行っているトラフグ資源管理に係る取り組みを再確認し、資源維持に努めましょう。

# 瀬戸内海のトラフグ資源管理 に係る取り組み（愛媛県）

## 小型魚の保護

すべての漁業種類について、

全長 **15 cm** 以下のトラフグは再放流しましょう！



**小型魚を保護しましょう**

ふぐを目的とした漁業では・・・

浮き延縄・浮き流し釣りは禁止です！

4月から6月までは休漁期間です。

延縄の釣り針は、直径1.2mm以上のものを使いましょう！

休漁日をもうけて、漁獲努力量を減らしましょう。

## 種苗放流の推進

**トラフグの種苗放流を行っています！**

愛媛県では平成17～21年度の5ヶ年で  
約31万5千尾を放流しました。

（平成22年度は、4万尾を放流予定）

# 瀬戸内海西部のトラフグ資源管理

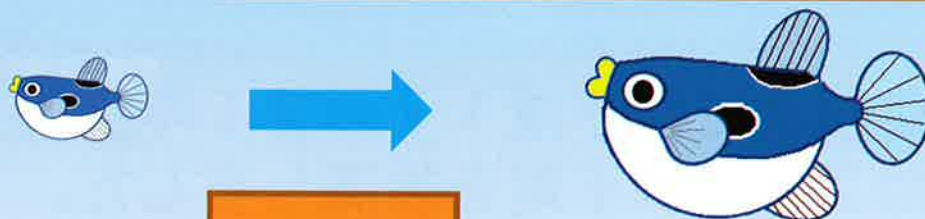


資源の減少を食い止めるには・・・

- ① 小型魚（当歳魚1歳魚）の保護  
瀬戸内海における漁獲は小型魚が約8割！  
制限全長以下の魚は再放流が基本
- ② 種苗放流の推進  
健全な種苗の適地放流や放流直後の混獲抑制

期待される効果

小型魚の生存率向上で資源の維持に貢献し、  
後年の漁獲確保と収入増加が期待される！



まずは、各県で行っているトラフグ資源管理に係る取り組みを再確認し、資源維持に努めましょう。

# トラフグ資源管理に係る取り組み (大分県)

## 小型魚の保護

全長 **20 cm**以下のトラフグは再放流しましょう！



**小型魚を保護しましょう**

ふぐはえなわ漁業は・・・

浮きはえなわの使用は禁止です！

操業期間は8月20日から翌年3月31日までです。

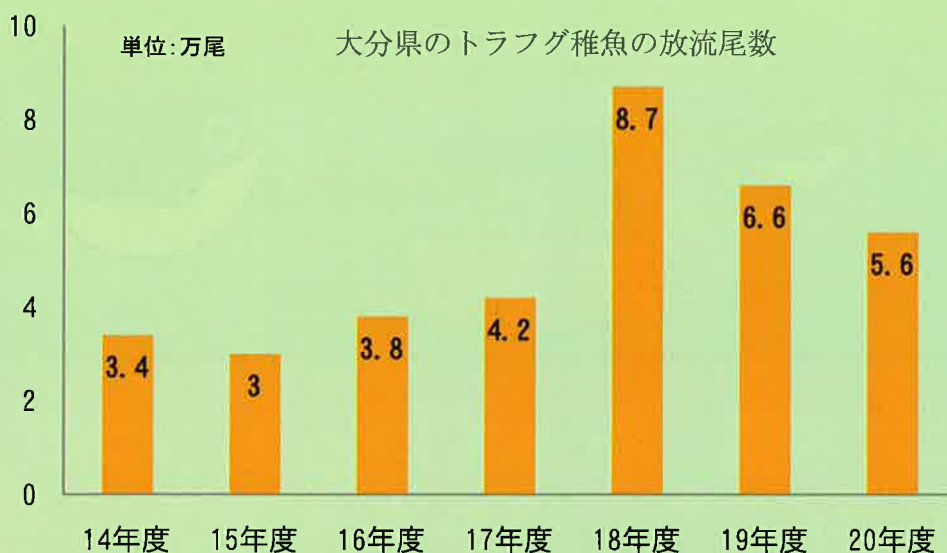
周防灘・豊後水道では、日没後の操業は禁止です。

毎月第二土曜日を休漁日としましょう。

## 種苗放流の推進

トラフグの種苗放流を行っています！

(平成22年度は、2.5万尾を放流予定)



# 瀬戸内海西部のトラフグ資源管理



資源の減少を食い止めるには・・・

- ① 小型魚（当歳魚1歳魚）の保護  
瀬戸内海における漁獲は小型魚が約8割！  
制限全長以下の魚は再放流が基本
- ② 種苗放流の推進  
健全な種苗の適地放流や放流直後の混獲抑制

期待される効果

小型魚の生存率向上で資源の維持に貢献し、  
後年の漁獲確保と収入増加が期待される！



まずは、各県で行っているトラフグ資源管理に係る取り組みを再確認し、資源維持に努めましょう。